

2023年3月期 決算説明資料

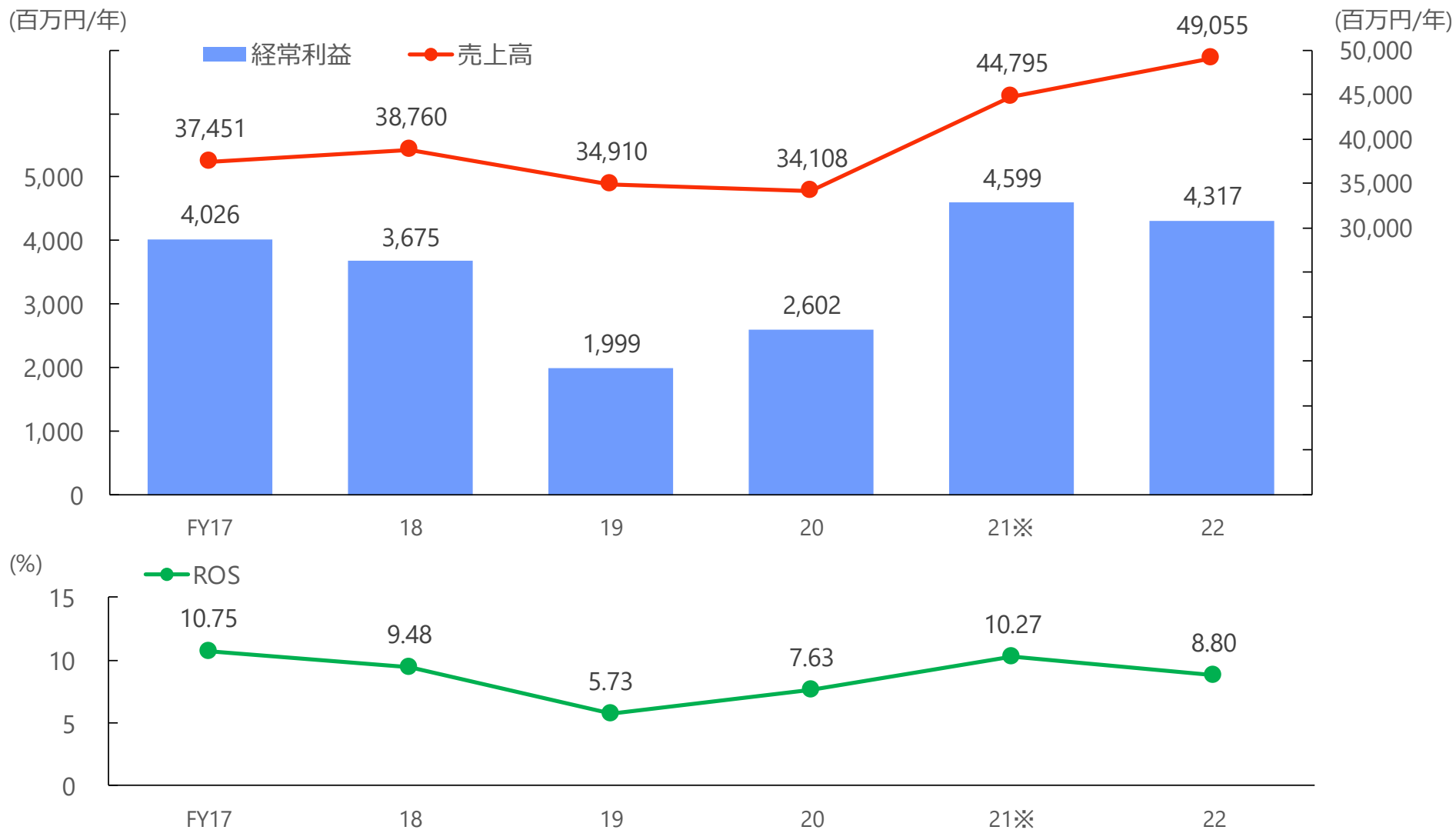
2023年4月27日

Micro&Fine Technology



日本精線株式会社

連結売上高・経常利益推移



※タイ精線の決算期を変更（2月→3月）

21/1Qのみ4か月分計上。

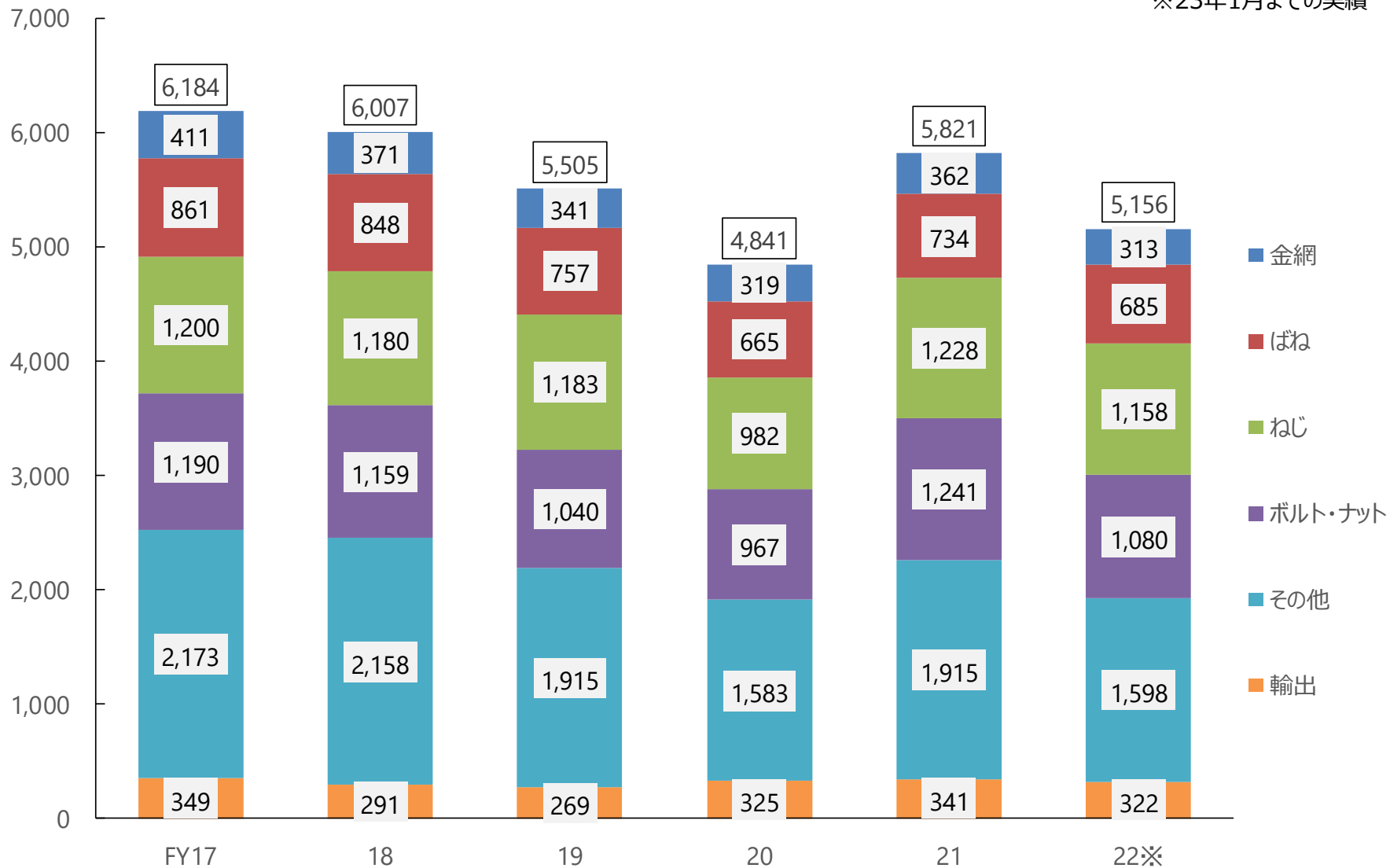
3月度タイ精線単体：売上高401百万円、経常利益36百万円

業界出荷数量の推移(ステンレス鋼線)

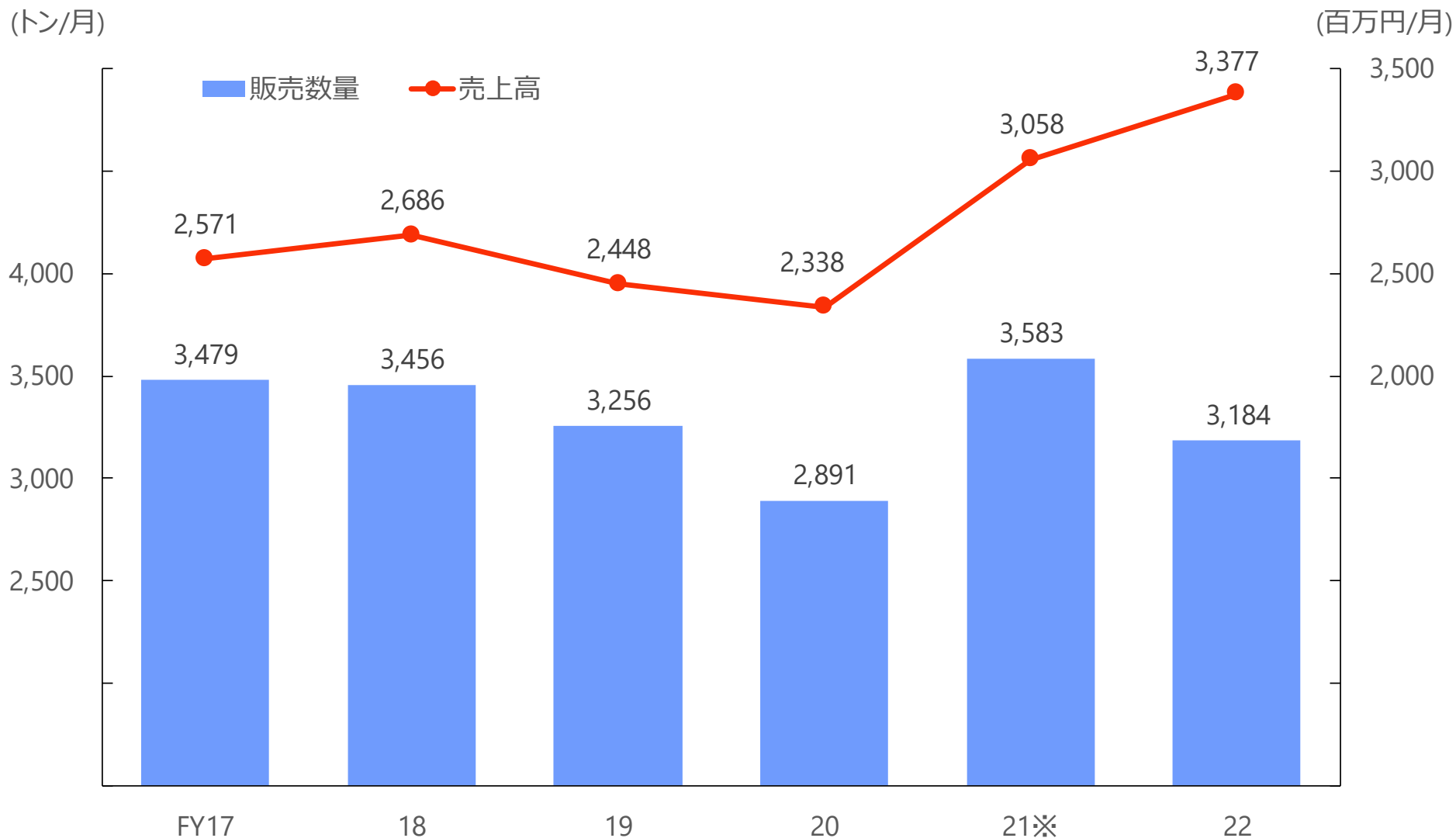
(トン/月)

出所：ステンレス協会

※23年1月までの実績

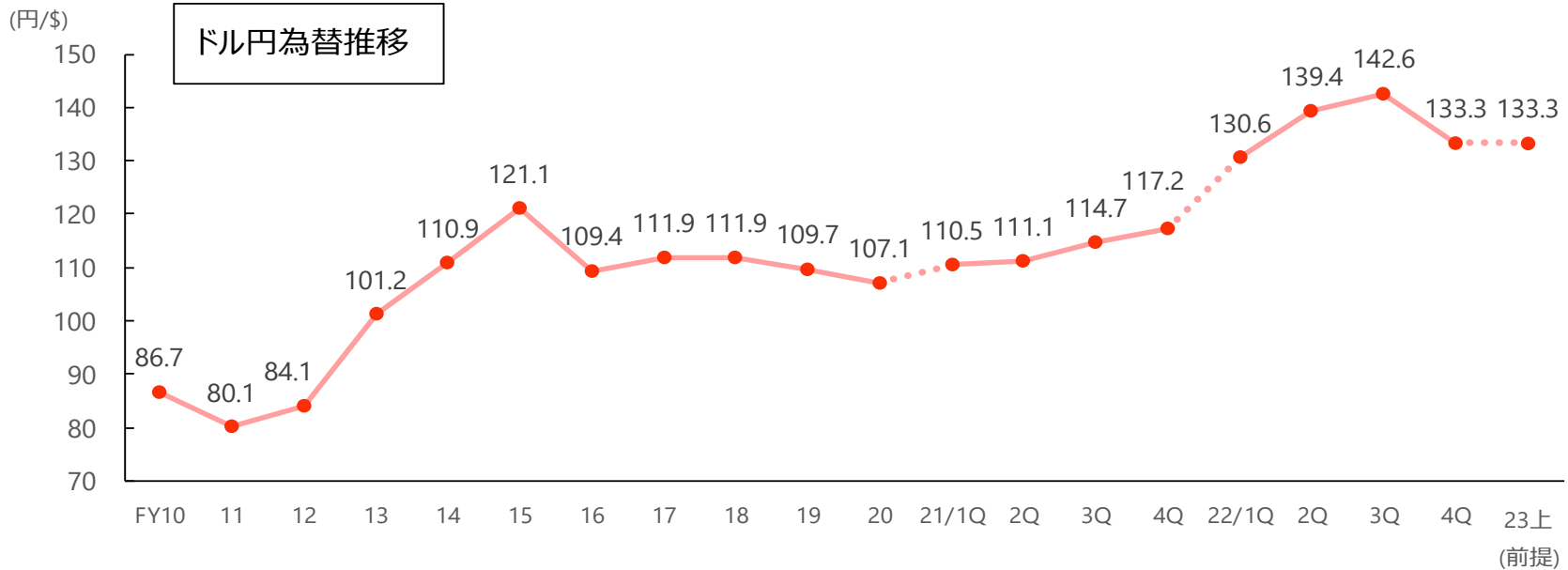
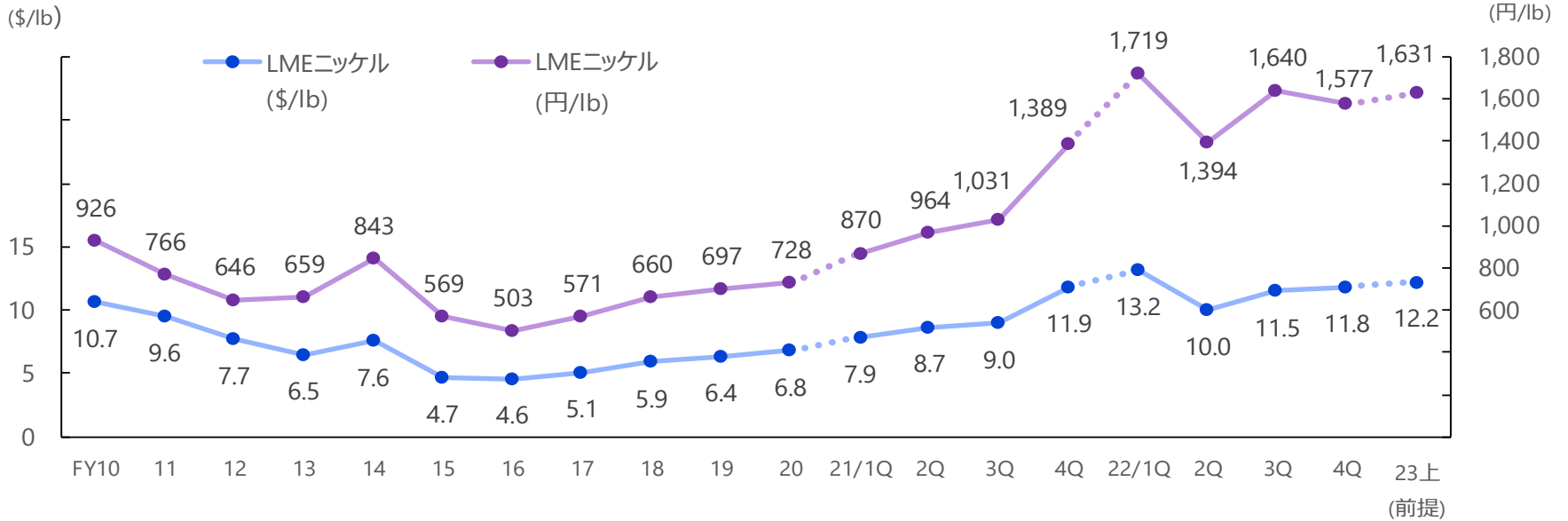


部門別売上高の状況(ステンレス鋼線)

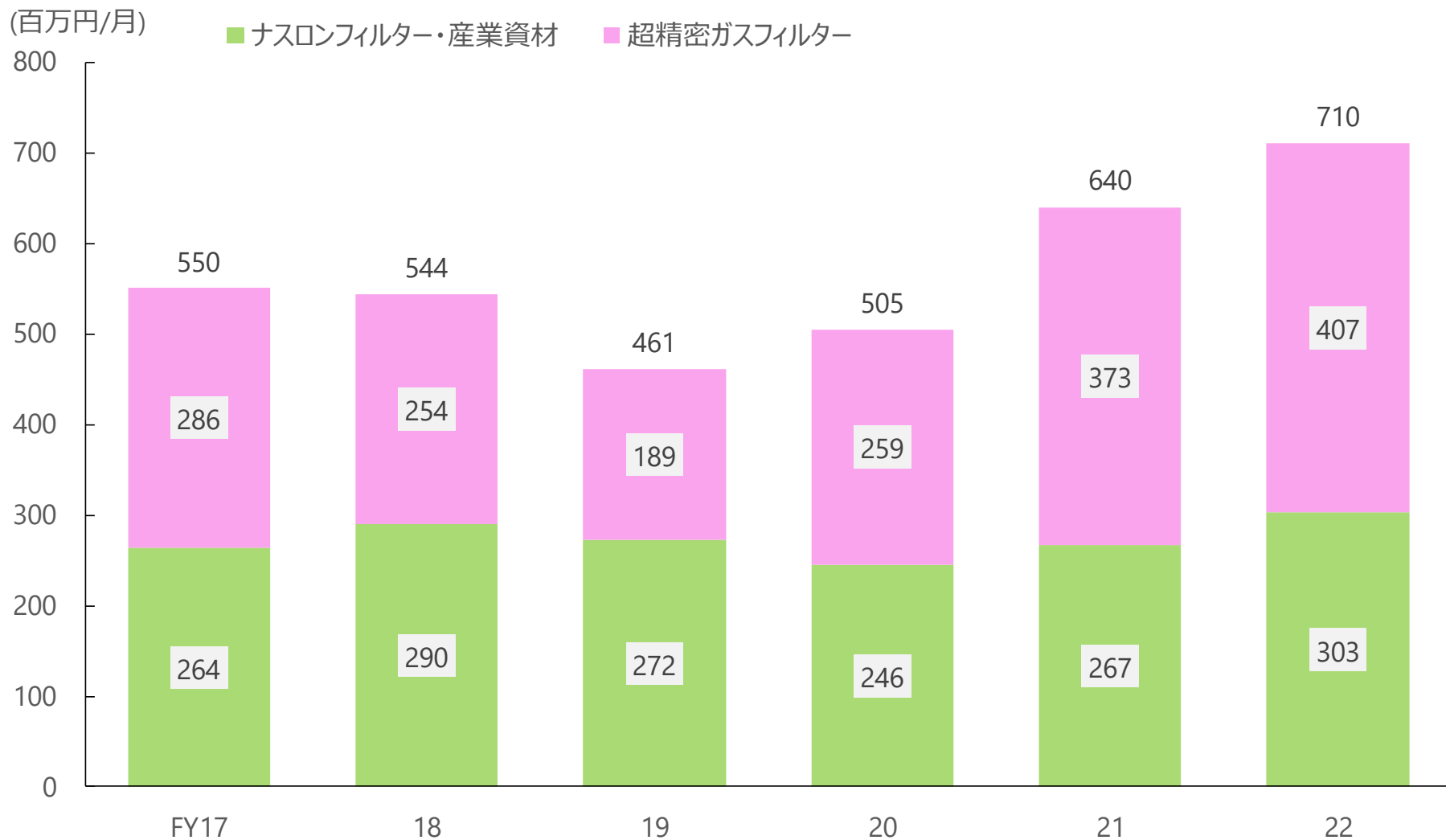


※タイ精線のみ21/3~22/3月の13カ月分を12カ月分に補正して計上。 [4]

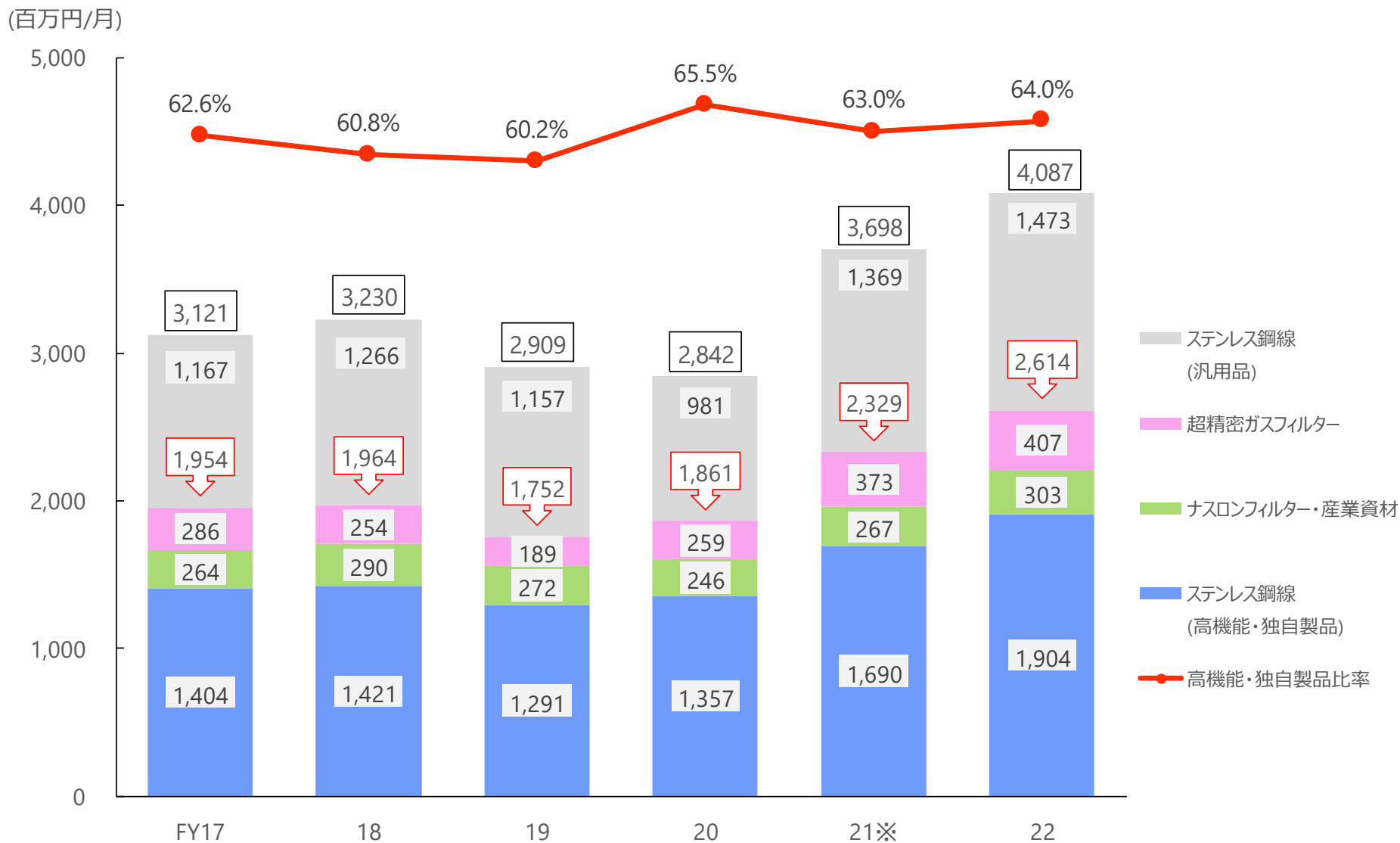
LMEニッケル価格・為替推移



部門別売上高の状況(金属繊維)



高機能・独自製品の売上高



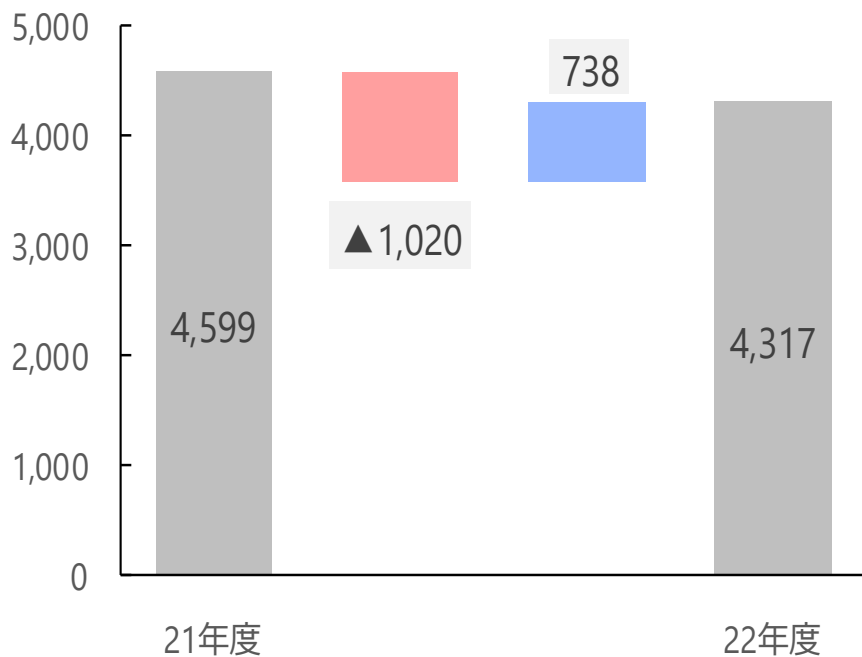
※タイ精線のみ21/3~22/3月の13か月分を12か月分に補正して計上。

経常利益の変化要因(前年対比)

【ロッド価格の前提】

	Ni(\$/lb)	為替(円/\$)
21年度	9.3	113.4
22年度	11.6	136.5

(百万円/年)

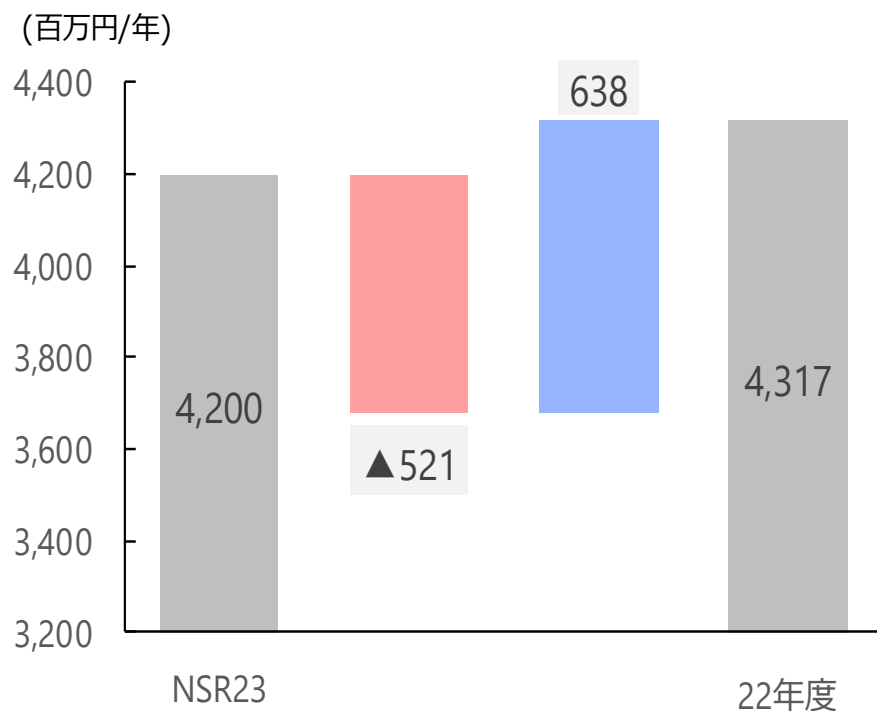


(百万円/年)

21年度経常利益		4,599	
対 比 変 化	営 業 損 益	Ni市況	- +260
		数量変化等	▲850 -
		内容差	- +344
		固定費	▲170 -
	合計	▲1,020 +604	
	営業外損益	- +134	
22年度経常利益		4,317(▲282)	

【ロッド価格の前提】

	Ni(\$/lb)	為替(円/\$)
NSR23	7.8	110.0
22年度	11.6	136.5

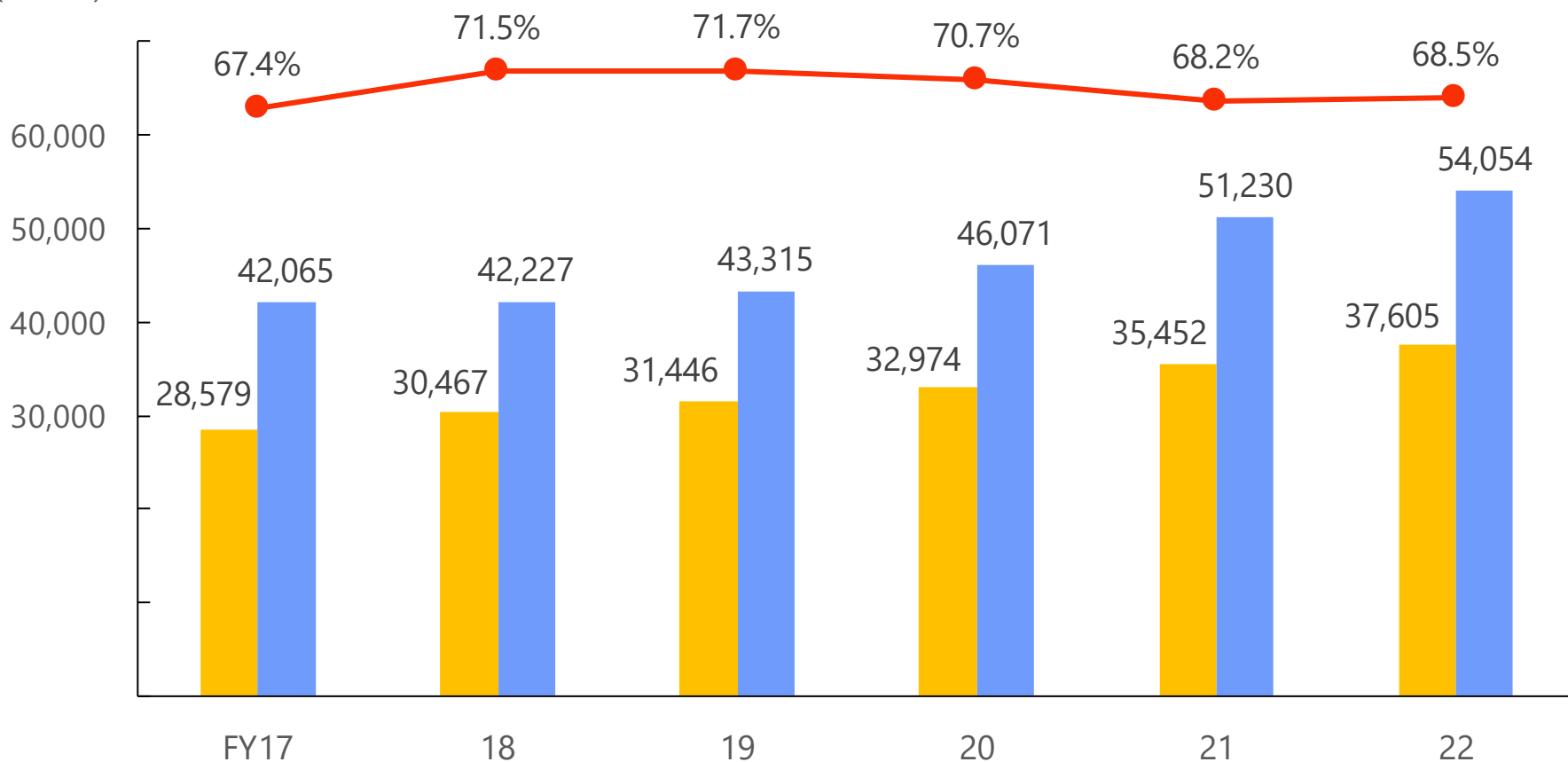


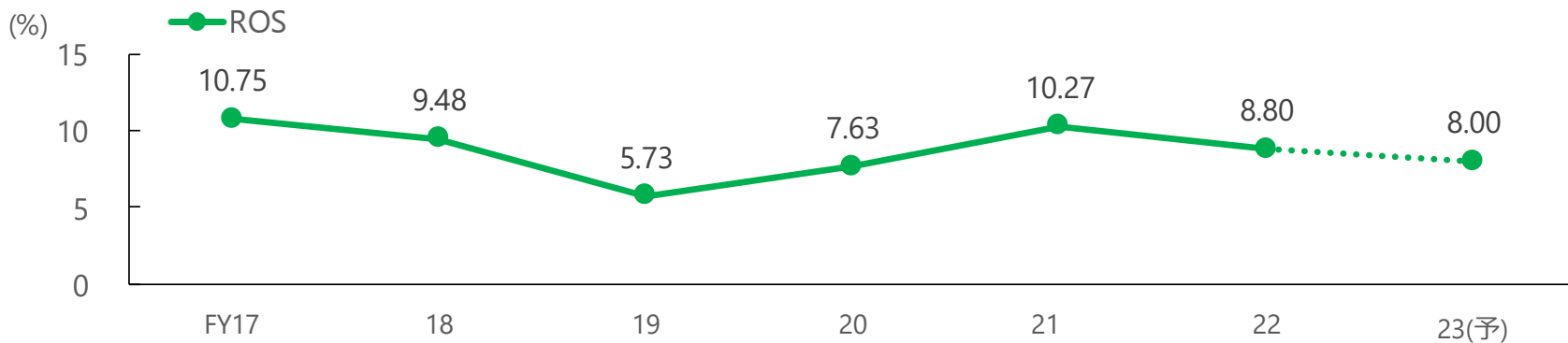
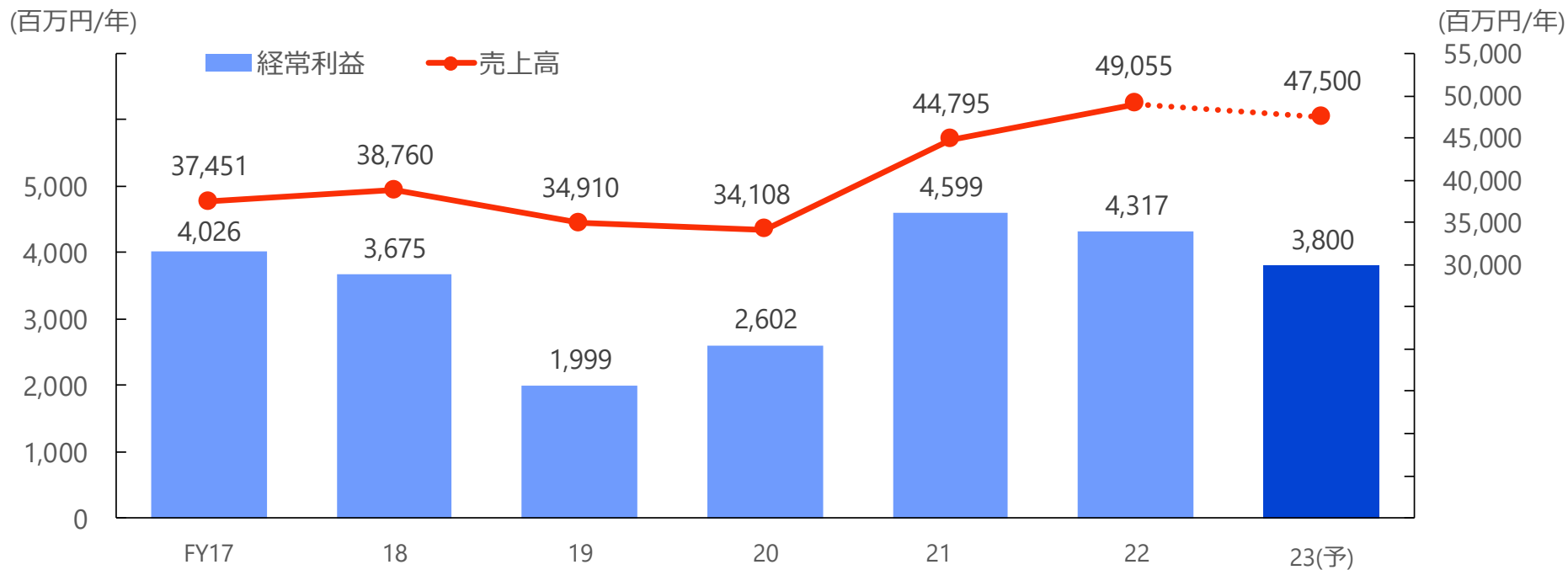
(百万円/年)

NSR23(23年度)経常利益		4,200	
対比変化	営業損益	Ni市況	- +200
		数量変化等	▲521 -
		内容差	- +300
		固定費	- -
		合計	▲521 +500
	営業外損益	- +138	
22年度経常利益		4,317(+117)	

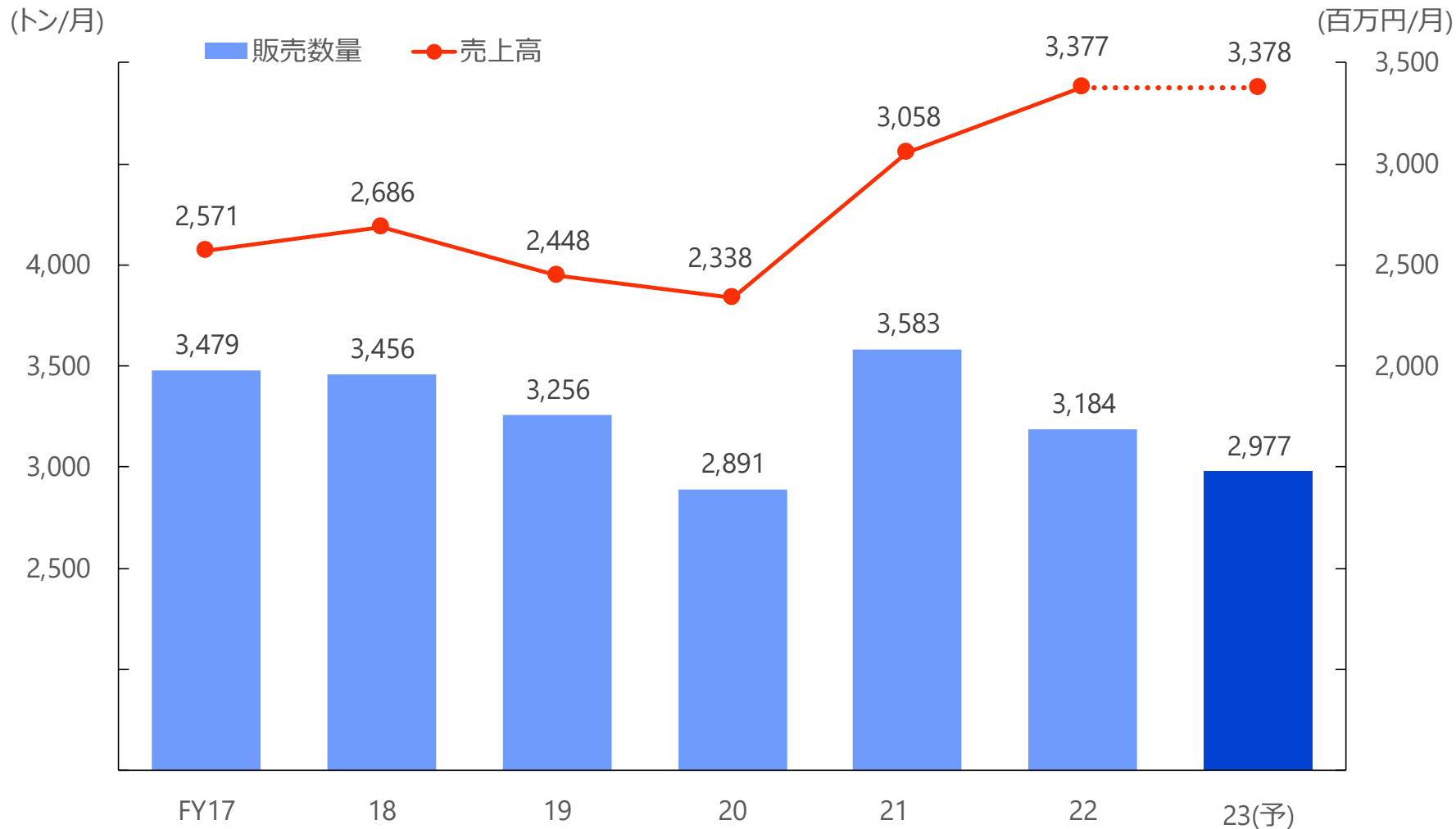
■ 純資産 ■ 総資産 ● 自己資本比率

(百万円)

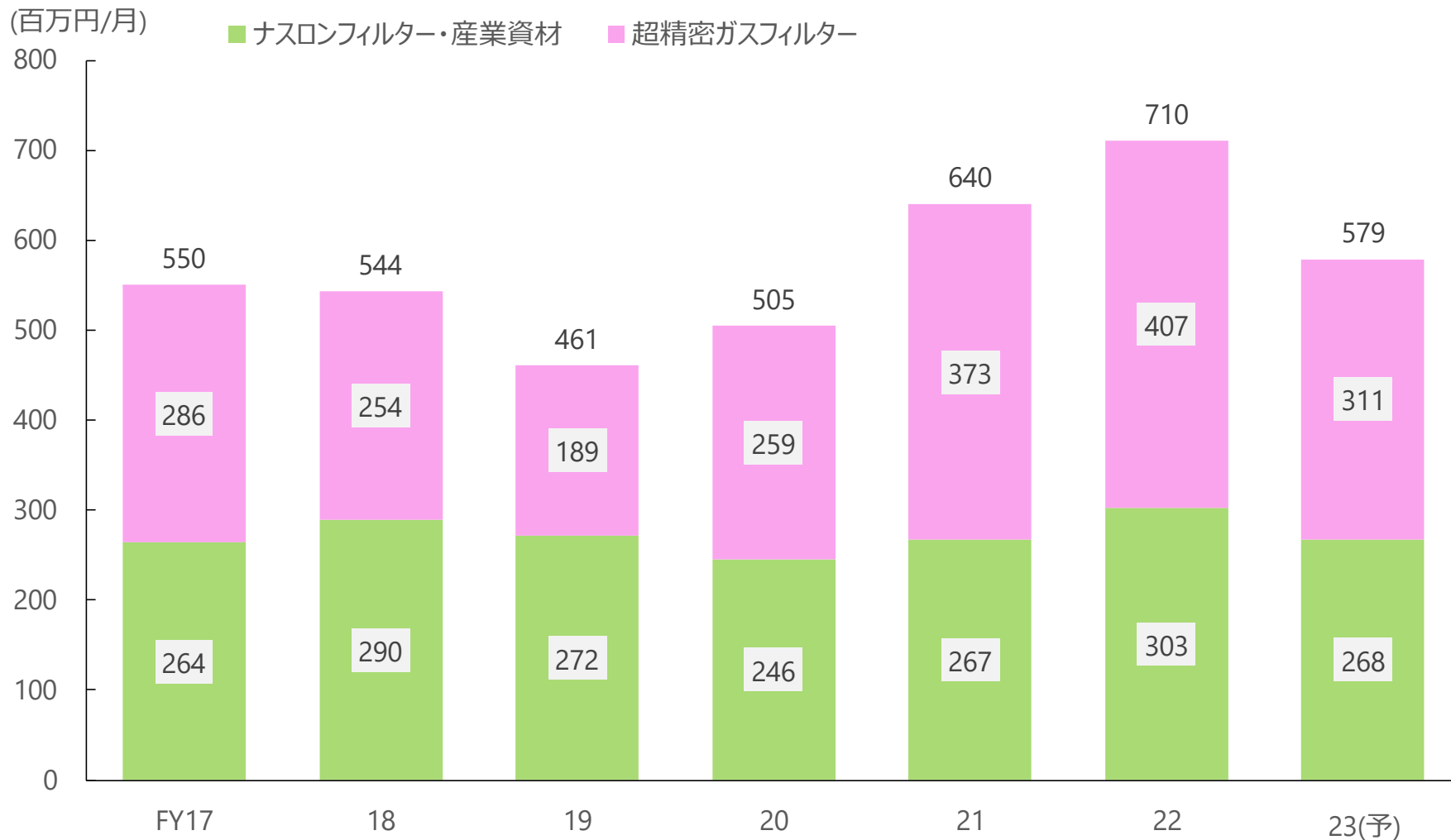




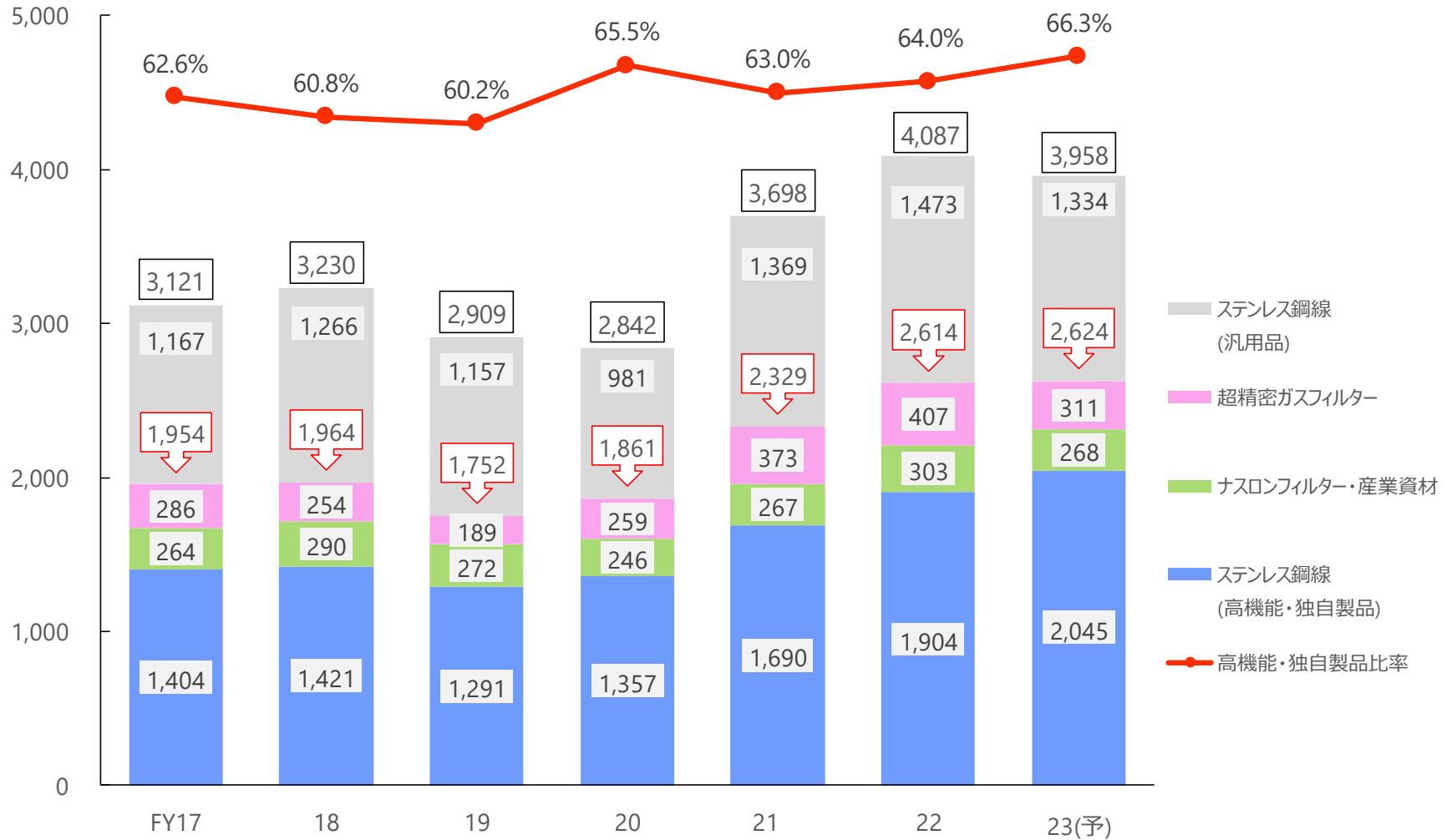
部門別売上高の見通し(ステンレス鋼線)



部門別売上高の見通し(金属繊維)



(百万円/月)

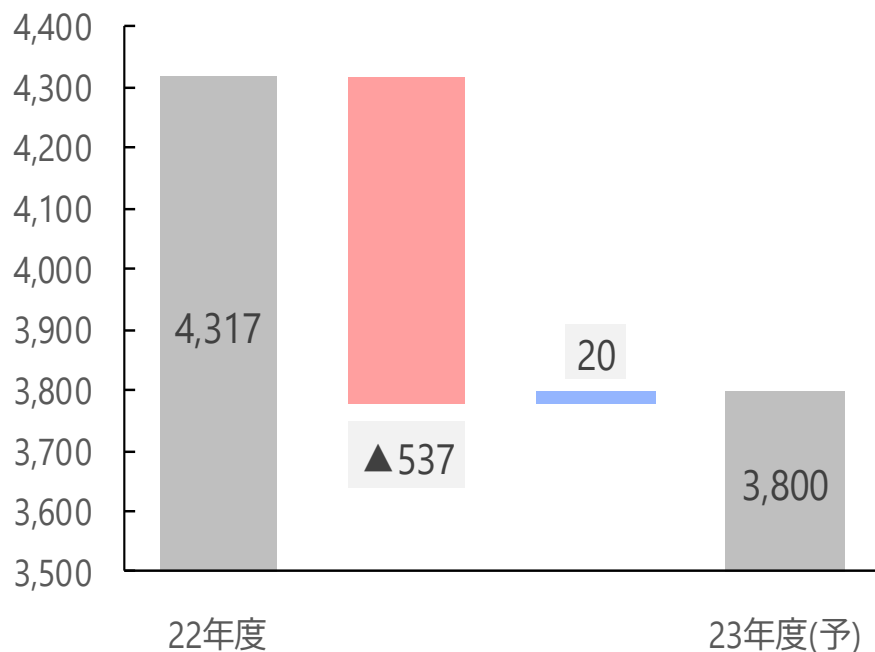


経常利益の変化要因(次期予想当期対比)

【ロッド価格の前提】

	Ni(\$/lb)	為替(円/\$)
22年度	11.6	136.5
23年度(予)	12.2	133.3

(百万円/年)

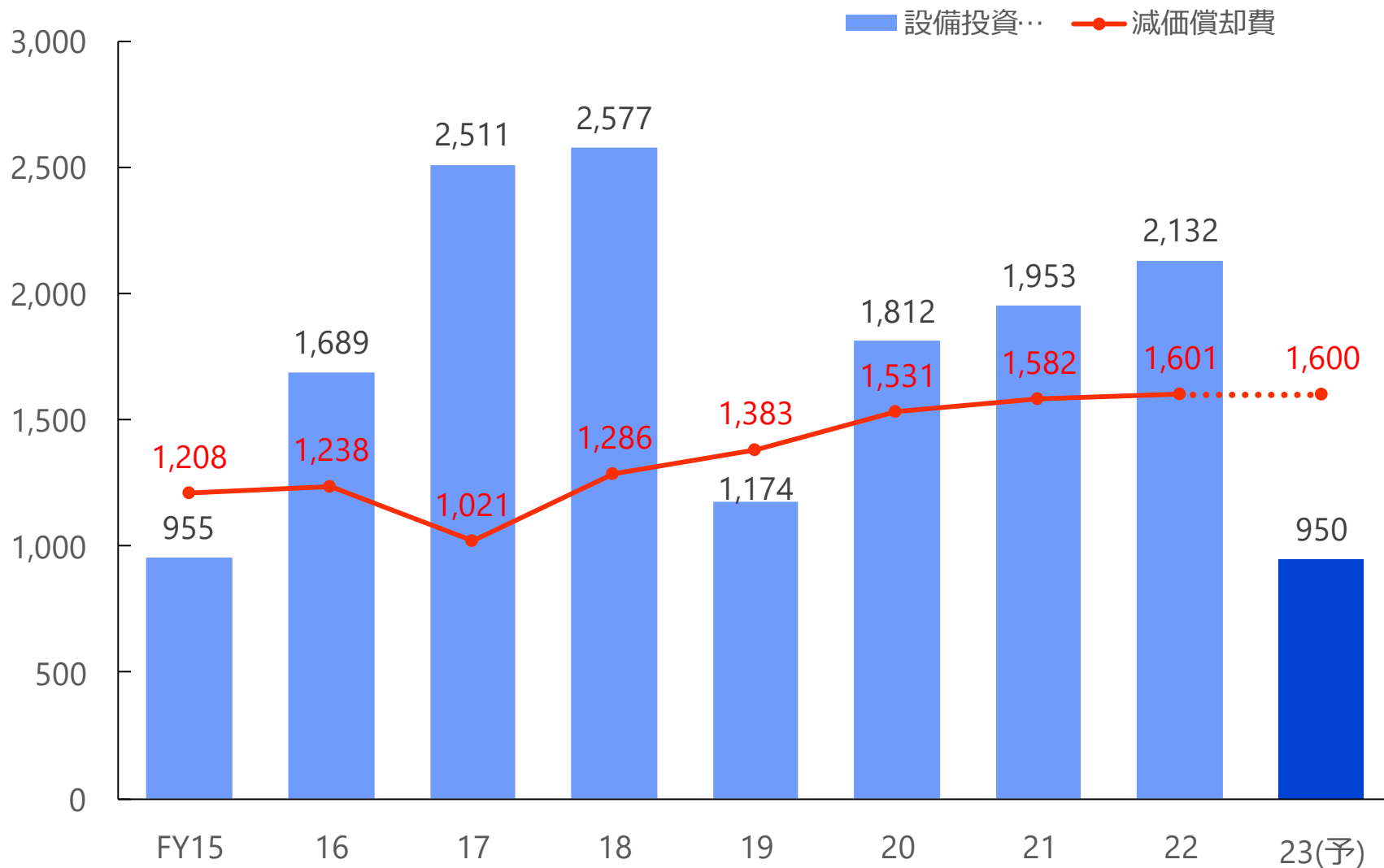


(百万円/年)

22年度経常利益		4,317	
対比変化	営業損益	Ni市況	-
		数量変化等	▲330
		内容差	▲69
		固定費	-
		合計	▲399
	営業外損益	▲138	-
23年度経常利益(予)		3,800(▲517)	

設備投資・減価償却費の推移

(百万円/年)



	22年度		23年度(予想)	
	中間期	通期	中間期	通期
経常利益 (百万円)	2,039	4,317	1,900	3,800
当期純利益 (百万円)	1,416	3,086	1,330	2,660
配当 (円/株)	105	210	105	210
配当性向 (%)	45.5%	41.7%	48.4%	48.4%

[株主還元のお考え方] 連結配当性向40%程度を目途に還元

- 日本精線リニューアル計画の継続・推進
 - 東大阪工場 酸洗設備 第2期合理化計画の実行
 - 枚方工場 極細線・バネ用材の機能能力増強
 - 金属繊維製造 リフレッシュ投資
 - タイ精線 ばね用材の増産投資

- 新製品開発と新市場開拓 : サステナビリティ社会に貢献
 - 極細線（シングルミクロン開発）
 - ～ 太陽光ソーラー発電効率向上
 - 超精密ガスフィルター（性能向上と新製品開発）
 - ～ 半導体製造装置の高性能化対応
 - サステナビリティ成長分野（医療、情報技術、環境など）

- 水素を巡る新事業の探索
 - 小型プラントによる実証実験開始

- コーポレートガバナンスとコンプライアンスの充実
 - 「サステナビリティ報告書2022」創刊（5月予定）
 - 人権DD
 - 多様な人材確保と育成



(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。